

令和2年3月12日

芦屋市立美術博物館
芦屋市谷崎潤一郎記念館

2020年度 事業計画書

(指定管理者)

小学館集英社プロダクション共同体

指定管理第3期の2年目は、新たな切り口の企画を立てることで幅広い層の動員を目指します。芦屋市立美術博物館では、外部企画の展覧会を春、秋に開催し、春には幅広い女性層向けの企画を、秋にはこどもから大人まで楽しめる企画を用意しました。

また谷崎潤一郎記念館では、春から夏にかけて谷崎潤一郎の周辺事情を展示、春には「美術」、秋には多くの「文豪達との交流」を中心に紹介し、新たな入館者を取り込みます。また、「美術博物館」と「谷崎潤一郎記念館」を一括運営することによって、より幅広い世代の市民に愛される施設を目指します。昨年度から実施している両館の入館料相互割引も好調で、本年度も継続します。

そして美術博物館については「芦屋市立美術博物館運営基本方針」に基づいた管理運営を行い谷崎館についても設置目的、使命に沿って運営いたします。

また「まなびはく」「つくるば」では、よりこどもも含め幅広い年代が楽しめる企画内容で、親子の参加を促します。

1. 指定管理者の概要

指定管理者名	小学館集英社プロダクション共同体
代表者名	株式会社 小学館集英社プロダクション 代表取締役社長 都築 伸一郎
所在地	本 社：東京都千代田区神田神保町2-30 昭和ビル 関西支社：大阪市北区曽根崎新地2-6-12 小学館ビル5階
電話番号	本 社：03-3222-9100（代表） 関西支社：06-6485-8086（パブリックサービス事業課）
FAX番号	関西支社：06-6485-8088
担当	運営管理：株式会社 小学館集英社プロダクション 維持管理：グローバルコミュニティ株式会社

2. 個人情報保護

管理上知り得た利用者・関係者の個人情報を保護するために、「芦屋市立美術博物館及び芦屋市谷崎潤一郎記念館 個人情報保護マニュアル」に沿った、下記の方策を徹底します。

- ① 法令で認められている場合を除き、個人情報の第三者提供、開示を禁止します。
- ② 個人情報を取得した書類、パソコン、CD、メモリなどの媒体を許可なく外部に持ち出すことを禁止します。
- ③ 紙媒体での個人情報は、必要最小限の保管とするとともに、鍵付きのロッカーに厳重に保管します。
- ④ ホームページ、メールなどへのウイルス侵入を防ぐためセキュリティソフトの整備、定期的なネットワークチェックを行います。
- ⑤ 個人情報の収集時には、必要に応じて職員が説明を行います。

- ⑥ 個人情報の取り扱い業務を外部に委託する場合は、委託先と協議の上覚書を取り交わすなど、厳重な管理を行います。
- ⑦ 個人情報保護に関する研修を年1回以上実施し、定期的に職員が個人情報の取り扱いについて徹底する機会を設けます。
- ⑧ 個人情報保護に関する内部監査を実施します。

3. 安全管理対策

利用者の安全を第一に考え、法令を順守した適切な内部管理を行うとともに、可能な限り危機が起こる前に予見し、危機の回避を図る方策と体制を整えます。「芦屋市立美術博物館及び芦屋市谷崎潤一郎記念館危機管理マニュアル」に沿った、下記の方策を徹底します。

- ① 緊急時の状況を想定した防災訓練、防犯訓練を行い、不測の事態に備えます。
- ② 避難経路の確保、非常時の避難器具、消火器具の作動確認を定期的の実施します。
- ③ 芦屋市、消防、警察等、関係機関との連携を密にし、防犯情報等の共有に努めます。
- ④ 利用者、周辺施設と連携した訓練を行い、地域ぐるみの防災・防犯体制構築を図ります。
- ⑤ 危機管理マニュアルは職員の周知徹底を図るため週1回の読み合わせを行い、状況に併せた改訂を重ねていきます。

4. 研修

職員のスキルアップ、安全管理体制の徹底を図るため、定期的に研修を実施します。

研修名	対象	頻度
新人研修	新規採用者	入職時
個人情報保護・セキュリティ研修	全職員	年1回以上
接遇・マナー研修	全職員	年1回以上
避難訓練・防災訓練	全職員	年2回以上
防犯訓練	全職員	年1回
職務研修 ※業務に応じたスキルアップなど	各担当職員	職員の申請に応じて責任者が承認

5. その他

①地域、市民との連携

地域、市民、利用者と協同し、共に美術博物館及び谷崎潤一郎記念館を創り上げていくために下記の取り組みを実施します。

i) アンケート調査に基づく顧客満足度の向上

アンケート調査を引き続き実施分析し、市民をはじめ幅広い利用者により親しまれ、利用される美術博物館を目指します。

ii) 博物館実習の受け入れ

毎年、10人以上の大学生の受け入れをしていますが、今後も学芸員育成のため、カリキュラムを充実し、広く募集します。例年、応募者が多数のため大学ごとに人数を割り振り不公平のないよう努めます。

*2019年度実績

同志社女子大学、近畿大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、京都女子大学、関西学院大学、成安造形大学（以上芦屋市立美術博物館）

武庫川女子大学（谷崎潤一郎記念館）

iii) 職業体験（トライやる・ウィーク）

市内中学生のトライやる・ウィークでの職業体験学習の受け入れをし、美術・博物・文学に関心のある若い世代に体験の場を提供します。

iv) 館だよりの発行

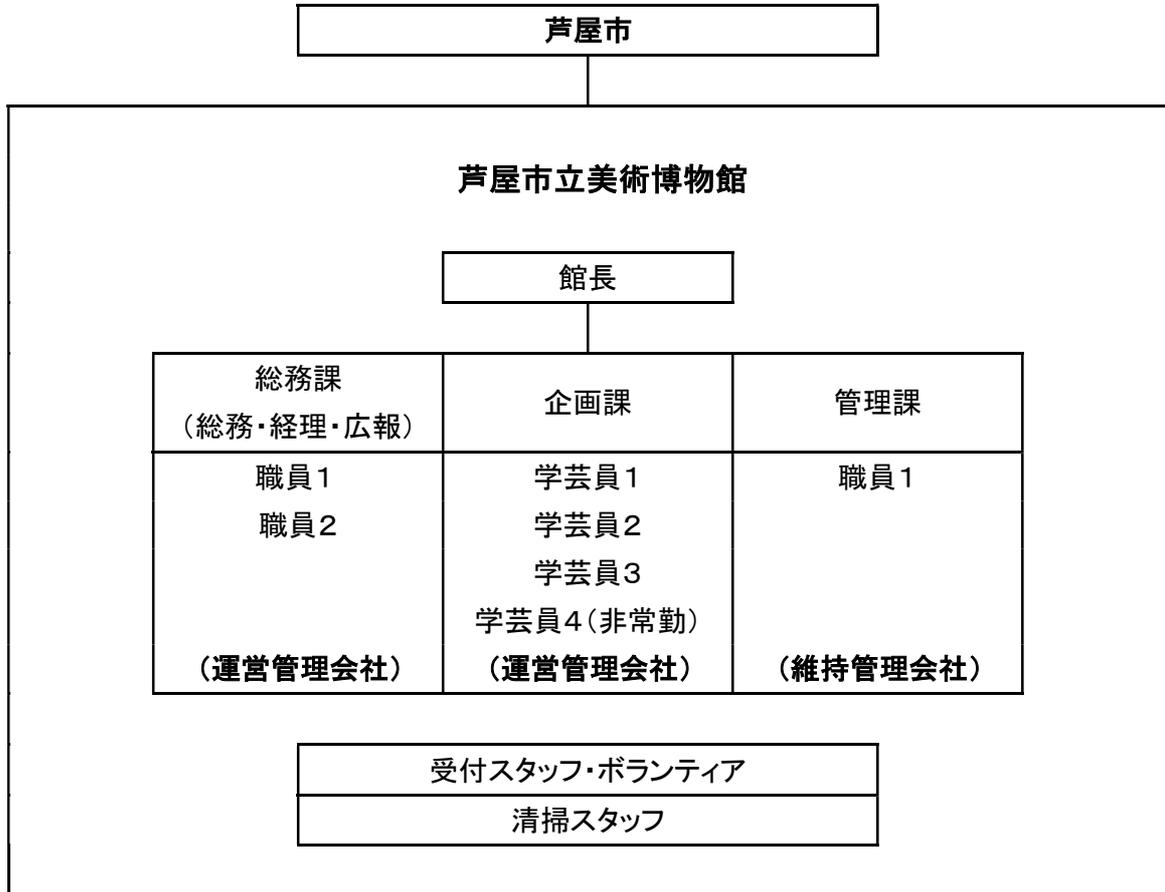
両館をより多くの市民に理解をいただくため、年1回、館だよりを発行します。

②収蔵品台帳の整備

館の収蔵品の状況把握と適切な管理のため、市と相談の上、収蔵品台帳の整備を行います。収蔵資料をより活発に活用できる様にすることを目標に、データベースを構築していきます。

芦屋市立美術博物館

1. 組織体制



2. 施設職員体制

施設職員	館長 兼 事務局長	: 1名
	総務課	: 2名
	企画課 (学芸員)	: 3名 (美術2名、歴史1名) 非常勤 (1名・歴史担当)
	管理課 (防火管理者)	: のべ1名 (非常勤職員3名)
※ その他展覧会受付スタッフ、ボランティアは展覧会等に併せて配置		
事務分掌	館長 兼 事務局長	: 館全体の総責任者
	総務課	: 総務事務、経理、各種申請書管理、広報活動 他
	企画課	: 展覧会・教育普及事業の企画・実施、作品の保存 調査・研究、各種広報物の作成 他
	管理課	: 施設、設備の維持管理、危機管理

3. 芦屋市立美術博物館運営基本方針

美術博物館の設置目的・使命に基づいて、下記の項目に沿った管理運営を行います。

【設置目的】

美術及び歴史に関する資料を収集し、保管し、及び展示して市民の利用に供し、その教養の向上を図り、もって市民文化に寄与することを目的とする。

【使命】

- (1) 美術部門と博物部門の共存
- (2) 芦屋ゆかりの美術作品・歴史資料等の継承
- (3) 市民参画・協働の促進
- (4) 子どもへの教育
- (5) 学習機会の提供

4. 利用料金

利用料金は、条例に沿った下記の料金設定を据え置きとします。

① 観覧料

区分	個人	団体 (20人以上)	特別展示観覧料
一般	300円	240円	2,030円の範囲内において教育委員会がその都度定める額
大学生・高校生	200円	160円	
中学生以下	無料		

② 特別観覧料

区分		特別観覧料 (1点1日につき)	
熟覧		300円	
模写、模造等		500円	
撮影	モノクローム	学術研究を目的とする場合	200円
		出版等の収入が伴う場合	1,010円
	カラー	学術研究を目的とする場合	400円
		出版等の収入が伴う場合	2,030円

③ 施設使用料

区分	使用料		
	午前 10 時から 正午まで	午後 1 時から 午後 4 時 30 分 まで	午前 10 時から 午後 4 時 30 分 まで
講義室	2,850 円	4,370 円	7,230 円
体験学習室	4,170 円	6,820 円	11,000 円

④ 駐車場使用料

時間	料金
1 時間以内	無料
1 時間を超えた場合	100 円 / 30 分

5. 展覧会予定（別途年間予定表を添付）

本年度の展覧会では、各年齢層に合わせた企画内容を意識して構成しました。そのためコレクションだけではなく外部企画の展覧会も開催し、幅広い年齢層の来館を目指します。4 月より「藍のファッション」展を開催。日本の伝統産業である、藍染による浴衣やファッションの展示を開催します。夏季展覧会では本年 7 月 24 日から開催の東京オリンピックなどスポーツの盛り上がりに合わせて「芦屋とスポーツ」に関する展示を開催。当館でも初めてスポーツを題材にした展示を開催致します。秋季は当館所蔵作品（小出樽重ら）を中心としたコレクション展を開催。小説家・福永信氏とともに当館コレクションを新しい視点で探っていきます。文化ゾーン連携と他分野を融合した展示を行います。また、2020 年 3 月に開催予定でした「美術と音楽の 9 日間 rooms」を 11 月に改めて開催致します。

冬季は「香川元太郎と迷路絵本展」を開催。迷路絵本作家である同氏の原画や立体迷路を展示。また、歴史考証に基づいた「城郭」「寺社」などの鳥瞰図も数多く描いており、関西圏における史跡の鳥瞰図原画も展示します。

2 月には例年恒例の「第 38 回芦屋市造形教育展」、そして 3 月からは「植松奎二」展を開催します。

また、歴史展示室では、4 月より「芦屋の歴史と文化財」、12 月からは、恒例の「昔のくらし」展を開催します。

具体的な内容は、下記の通りです。（※展覧会名称は変更する場合があります。）

【第一展示室/第二展示室】

◇4月7日（火）～6月7日（日） 54日間

藍のファッション展

現代もなお愛され続けている藍染の染織作品の魅力を、その技法とデザインから紐解く展覧会です。江戸時代の浴衣から藍染や有松絞などの伝統的技法を用いながらも「着物」の形にとらわれない新しい感性とデザインを作品に取り入れている作家やファッションブランドをご紹介します。約24人の作家とブランドによる40点余りの藍のファッションとともに型紙と籠、染織技法と製作過程を追うドキュメンタリー映像など約10点の資料を一緒にご紹介し、藍の深い魅力に迫ります。

【第一展示室/第二展示室】

◇6月27日（土）～9月6日（日） 59日間

スポーツものがたり ～芦屋とスポーツ～

戦後間もない1948年に市長に就任した猿丸吉左衛門市長は、自身がアスリートだった経験から「スポーツのまち」を目指し、全国に先駆けてスポーツに関する様々な取り組みを行っていました。芦屋ゆかりのアスリートや、競技をはじめとして、芦屋とスポーツの関わりから今日のスポーツの発展を、貴重な資料とともに紹介します。

【第一展示室/第二展示室】

◇9月19日（土）～11月8日（日）44日間

芦屋の時間 大コレクション展

芦屋市立美術博物館は2021年3月に開館30年目を迎えます。30年という時間の中で、当館は優れた作品を多く収蔵してきました。コレクション展もこれまで何回も開催しています。見るたび新たな発見が（作品自体は変化しないのに）あるからです。洋画の達人「小出檜重」、戦後現代美術の先駆け「具体美術協会」だけではなく、たくさんの才能が収蔵庫で出番を今か今かと待っています。そう、みんなに会いたくて待っているんです。本展では、面白いアイデアを考えつくことにかけては日本一の才能がある小説家の福永信さんと一緒に、作品の新鮮な見方と新しい出会い方を見つめます。

【第一展示室/第二展示室】

◇11月14日（土）～11月23日（月・祝）9日間

美術と音楽の9日間 rooms

2020年3月に開催予定を予定していた展覧会を延期し実施します。国内外で活躍する美術家や音楽家、アーティストの作品を時間の流れに沿って展開し、聴覚や視覚といった感覚の領域にとらわれることのない体験を美術作品と音楽で楽しむ企画展です。2020年3月に止まった時間が動き出します。美術と音楽の一日「rooms」の最終章となります。

【第一展示室/第二展示室】

◇12月5日（土）～2021年2月7日（日） 50日間

香川元太郎「迷路の絵本」展

迷路絵本の作家として、数多くの作品を世に生み出している作家・香川元太郎氏の原画を展示。立体迷路も制作し、家族で楽しめる展示を行います。また、歴史考証イラストレーターとしても著名な同氏は、関西圏における「城郭」や「寺社」の鳥瞰図も数多く手がけており、その原画も併せて展示します。

【第1展示室/第2展示室】

◇2021年2月13日（土）～2月21日（日）8日間

第38回芦屋市造形教育展

市内の幼稚園・小学校・中学校生徒の作品を全館にわたり展示します。

【第1展示室/第2展示室】

◇3月13日（土）～4月8日（木）23日間（予定）

植松奎二 みえないものへ、触れる方法（仮）

重力、引力といった見えない力の法則から世界の構造・存在・関係をよりあらわにしてきた植松奎二（1947-）。作品の水脈として在る「見えないもの」を鍵に、世界に触れる方法を探っていきます。

【歴史資料展示室】

◇①4月7日（火）～11月23日（月・祝） 176日間

②2021年3月13日（土）～2021年11月頃（予定）

芦屋の歴史と文化財展

2012年に芦屋市指定文化財に指定された「芦屋川の文化的景観」が育んできた芦屋の歴史を古代、中世・近代の各時代に分け、それぞれの時代の主要な歴史資料をご紹介します。また、市制80周年を迎えるにあたり、芦屋市の歩みを伝えるコーナー展示も開催予定です。

※①期のみ

【歴史資料展示室】

◇12月5日（土）～2月21日（日）58日間

昔のくらし展

昔の人が大事に使っていた資料を通して、道具やくらしが変わってきたことには、人々のどんな知恵や願いが込められていたのかを考えます。今のくらしができるようになった道具の進化や人々の工夫をご覧ください。

6. 講座・イベント等の予定（教育普及事業）

「芦屋市立美術博物館運営基本方針」で示されている「学習機会の提供」という使命に則り、幅広い世代に美術・歴史等に触れることのできる機会を提供します。

「まなびはく」を中心に外部有識者や研究者を招聘して各種講演会や講座を実施し、芸術や歴史に対する理解を深めていただきます。また、展覧会に連動した講演会やワークショップ等を盛り込み、芸術文化事業に対する理解を深めていただく機会を提供します。

また、「まなびはく」のワークショップを中心に、各展覧会でも絵や書などの自由な創作活動や、特に夏休み期間を中心に身近な材料を使った工作等のワークショップを開きます。その他のこどものためのワークショップについてはより多くの幼稚園、小学校、中学校の児童、生徒のみなさんに来ていただけるよう、土日、夏休みを中心に実施します。

谷崎潤一郎記念館との連携も今年も取り組み、毎年2回行われている「つくるば」も両館協力して実施する予定など、両館の連携を常に念頭に置きながら運営してまいります。

アートスタディプログラム 2020 「Mana-Bihaku/まなびはく」

2014年から2017年度にかけて「びはくルーム」と題した教育普及プログラムを開催、子どもから大人まで幅広い年齢層を対象としたワークショップや講座、イベント等を行ってきました。

そして2018年度より方向性を一新し、学生以上の一般の層をターゲットとした講座内容に特化し、当館ならではの教育普及プログラムとして、2018年6月よりアートスタディプログラム「まなびはく」と題し、美術家や美術史家、小説家などを講師に招き、芸術の面白さ、楽しさ、難しさなどを発見していく講座を開催しました。

2020年度も引き続き、本プログラムを通じた美術を学び発見する面白さ・楽しさ・難しさといった体験から、自己の既成概念を超えて様々な事柄を感じ、考える力を一層強め、より豊かな生活への一歩としていただけるように努めます。本年は特に「大人も楽しめるワークショップ」の開催など、幅広い年代の方が参加し、楽しみながら学べるプログラムを計画しています。

子ども向けの教育普及事業も引き続き取り組み、伊勢幼稚園と連携プログラムや未就学児童、小・中学生、高校生が興味をもって参加できるような内容の事業も行う予定です。

【講座 まなびはく】

2020年6月頃～（全6回程度（調整中））

大人も体験できるワークショップやアートパフォーマンス、美術評論等、様々なテーマで開催を予定しています。

7. 自主事業

手作り品の販売やワークショップ、おいしい食べ物や古書の販売など、ジャンルを超えた様々な交流や体験を通じて、大人も子どもも楽しい時間を過ごすイベントです。その結果、美術博物館を通じ、市民だけでなく、幅広い世代・地域を問わない交流の場となり、当館がより身近な存在となることを目指します。また谷崎潤一郎記念館も参加することで、両館の相互の入館を促進します。

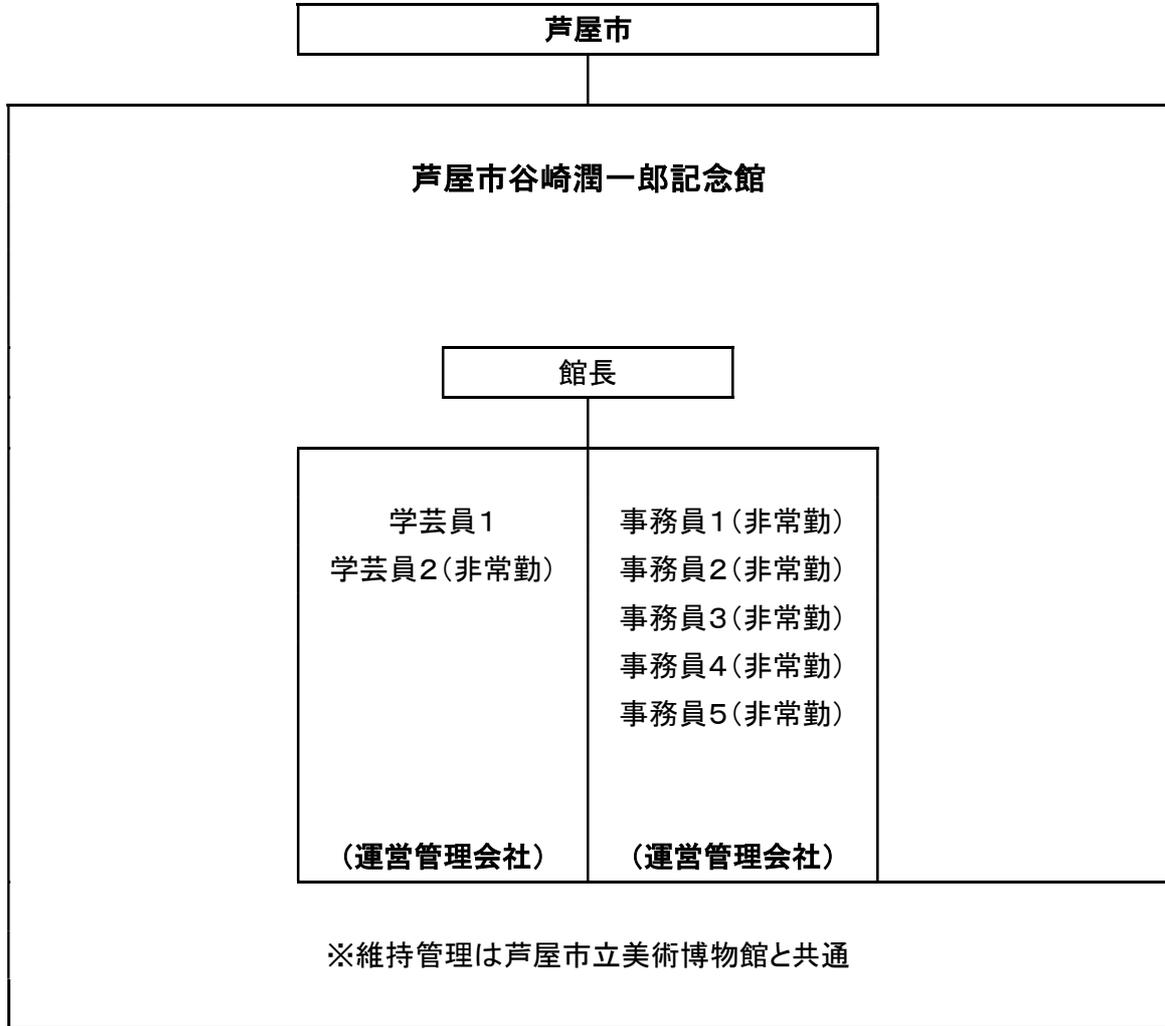
当該事業は以下の3点を目指し、実施します。

1. 「つくる」ことから生まれる喜びや、発見を共有できる場の提供。
2. 当館の芝生のお庭でお買い物や食事を楽しめる場。
3. 年2回のイベントを継続実施し、当館の存在を認知してもらうこと。

本年度春(5/30, 5/31)は、「音楽」をテーマとして実施予定。市内中学校の吹奏楽部も参加やライブイベントを予定。例年通り、「伊勢幼稚園」の園児たちとワークショップを実施し、製作物を前庭に飾り付けをします。また子供向けのワークショップも実施し、ご家族の動員を促します。

芦屋市谷崎潤一郎記念館

1. 組織体制



2. 施設職員体制

施設職員	館長 : 1名 学芸員 : 2名 (うち、1名非常勤) 事務員 : 5名 (非常勤) ※維持管理は芦屋市立美術博物館と共通
事務分掌	館長 : 館全体の総責任者 学芸員 : 展覧会・教育普及事業の企画・実施、作品の保存 調査・研究、各種広報物の作成 他 事務員 : 総務事務、経理、各種申請書管理、広報活動 他

3. 芦屋市谷崎潤一郎記念館運営基本方針

谷崎潤一郎記念館の設置目的・使命に基づいて、下記の項目に沿った管理運営を行います。

【設置目的】

谷崎潤一郎文学の作品、遺品等に接することを通じて、その教養の向上を図り、もって市民文化に寄与することを目的とする。

【使命】

1. 谷崎文学、及び所蔵品の調査・研究・発表
2. 美術博物館との連携運営
3. 市民参画・協働の促進
4. 学習機会の提供

4. 利用料金

利用料金は、条例に沿った下記の料金設定を据え置きとします。

① 観覧料

区分	個人	団体 (20人以上)	特別展示観覧料
一般	300円	240円	1,010円の範囲内において教育委員会がその都度定める額
大学生・高校生	200円	160円	
中学生以下	無料		

② 特別観覧料

区分		特別観覧料 (1点1日につき)	
熟覧		300円	
模写、模造等		500円	
撮影	モノクローム	学術研究を目的とする場合	200円
		出版等の収入が伴う場合	1,010円
	カラー	学術研究を目的とする場合	400円
		出版等の収入が伴う場合	2,030円

③ 館外貸出料

区分	貸出料 (1件につき)
館外貸出し	10,180円の範囲内において教育委員会がその都度定める額

④ 施設使用料

区分	使用料	
	午前 10 時から 正午まで	午後 1 時から 午後 4 時 30 分 まで
講義室	1,420 円	1,830 円

5. 展覧会予定（別途年間予定表を添付）

谷崎潤一郎は日本人の誰もが知る作家です。傑作として広く知られている作品には、人間の欲望や美意識を題材としたものが多く、谷崎潤一郎を慕う国民の多くはシニア層が占めています。本施設を、谷崎潤一郎を中心とした文学に関する情報発信拠点としての位置づけだけではなく、芦屋市における文学拠点の一つとして捉え、阪神間モダニズムを土台とした文学発信施設とし、シニアだけではなく、子どもから大人まで幅広い世代が文学を体感できる施設を目指します。

◇2020年3月14日（土）～2020年6月7日（日） 74日間

春の特別展「潤一郎の美術展～文豪ゆかりの「美」に浸る～」

「耽美派」といわれた文豪、谷崎潤一郎。その美意識・審美眼は、やはりこだわり深くユニークなものでした。谷崎自身のお気に入りだった、またその作品世界に関わる絵画・美術品からは、そんな文豪の美への視線がおのずと浮き上がってきます。特別展では、谷崎ゆかりの数多くの名画・名品を贅沢に展示、様々な角度から文豪の美の世界に迫ります。

◇6月13日（土）～9月6日（日） 74日間

夏の特設展「大谷崎と文豪たち～恩人・親友・恋敵～」

谷崎は、明治から昭和にかけて、多くの文豪たちと交流し創作の糧としました。明治の出版期には、夏目漱石や泉鏡花の存在や作風に影響を受け、永井荷風からの称賛で華々しい文壇デビューを飾りました。また、白樺派の志賀直哉らとは、終生の交友関係を築きます。大正期には、芥川、佐藤春夫らと親交を深め、特に佐藤とは妻譲渡事件を巻き起こし、世間の注目を集めました。こうした、文豪同志の交流や影響関係を、当館所蔵の資料から紹介します。

（併設）通常展「谷崎潤一郎・人と作品」

文豪谷崎潤一郎の人生とその作品世界を、初版本や肉筆書簡・遺愛の品々等、多様な資料によって年代順にわかりやすく展示します。

◇9月12日(土)～12月6日(日) 74日間

秋の特別展「タブー～発禁の誘惑～」

日本の近代文学を代表する文豪・谷崎潤一郎。その生涯は80年にも及び、作家としてのキャリアも半世紀をこえます。その間、時々の歴史と社会のタブーと、しばしば危うい摩擦を引き起こしています。そして時には、発禁の憂き目に遭いながらも、歴史の荒波と日本社会の転変を、物書きとして見事に掻いぐり生き延びてきました。特別展では、表現者ならば誰しもが直面するタブーとのジレンマ「発禁の誘惑」への、谷崎独特の絶妙の距離感を浮き彫りにしていきます。

◇12月12日(土)～2021年3月7日(日) 68日間

冬の特設展「初版本 on パレード～名作たちのデビュー～」

「初版本」—その言葉の響きには、独特の緊張感があります。それは、数多くの名作たちにとっての、一度きりの「デビュー」なのです。装丁にこだわった谷崎の場合、自作の晴れ舞台への思い入れはとりわけて強く、念入りなドレスアップとメイクアップが施されています。展示では、そんな谷崎作品初版本の数々を、「売り買いされる商品」としての書籍という視点をもからめながら紹介します。

(併設) 通常展「谷崎潤一郎・人と作品」

文豪谷崎潤一郎の人生とその作品世界を、初版本や肉筆書簡・遺愛の品々等、多様な資料によって年代順にわかりやすく展示します。

◇2021年3月中旬～6月初旬

2021年度 春の特別展 「細雪」(予定)

7. 残月祭

谷崎潤一郎の誕生日の7月24日に、谷崎を偲び谷崎文学を語る講演会を開催します。

8. 谷崎潤一郎賞関連企画

谷崎潤一郎賞(株式会社中央公論新社主催)の関連企画開催時には広報等について協力します。

9. 自主事業(講座等)

「3. 芦屋市谷崎潤一郎記念館運営基本方針」で示した「学習機会の提供」という使命に則り、幅広い世代に文学等に触れることのできる機会を提供します。

また、展覧会に連動した講演会等を盛り込み、芸術文化事業に対する理解を深めていただく機会を提供します。

◇4月12日（日）

春の特別展関連講座 「学芸員が語る春の特別展」

谷崎ゆかりの名画・名品を、数多く贅沢に展示する春の特別展。見どころや作品のあれこれを、学芸員がわかりやすく解説します。

◇2020年3月14日（土）～2020年6月7日（日）

ロビー展「文豪の顔—陰翳の肖像—」

写真を撮ることも、撮られることも好きだった谷崎潤一郎。七十九年にわたる人生、「文豪の顔」に浮かび上がる光と陰に迫ります。

◇4月～翌年3月

谷崎館講座

源氏物語原典を読む、俳句、絵手紙、いい文章、仏画、日本画、万葉集、朗読、短歌、カリグラフィー、スケッチなど、様々な講座を年間通して行います。

講座名	実施日	定員	場所
源氏物語講座	第3金曜日	70人	市民センター
短歌講座	第3火曜日	16人	講義室
俳句講座	第4土曜日	16人	講義室
季語から始める俳句レッスン	第2土曜日	15人	講義室
”ちょっといい文章” 書いてみませんか	第4水曜日	16人	講義室
初めての万葉集	第1水曜日	16人	講義室
しあわせを呼ぶ絵手紙講座	第1土曜日	16人	講義室

筆で描くカリグラフィー	第 3 水曜日	16 人	講義室
仏画講座 癒しの仏画を描きましょう	第 2 土曜日	10 人	講義室
初めての日本画・午前	第 2 木曜日	14 人	講義室
初めての日本画・午後	第 2 木曜日	14 人	講義室
スケッチ講座(水)午前	第 2・4 水曜日	12 人	講義室
スケッチ講座(水)午後	第 2 水曜日	12 人	講義室
スケッチ講座(金)午前	第 1・3 金曜日	12 人	講義室
基礎から学ぶ朗読講座	第 3 水曜日	10 人	講義室
名作をひもとき名文を朗読	第 1 水曜日	16 人	講義室

* 展覧会名は、変更する可能性があります。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
歴史資料展示室	芦屋の歴史と文化財					
期 間	4月7日(火)－11月23日(月・祝)					
第1展示室	藍のファッション展			スポーツものがたり-芦屋とスポーツ-		芦屋の時間 大コレクション展
第2展示室						
期 間	4月7日(火)－6月7日(日)			6月27日(土)－9月6日(日)		9月19日(土)－ 11月8日(日)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
歴史資料展示室	芦屋の歴史と文化財		昔の暮らし			芦屋の歴史と文化財
期 間	4月7日(火)－11月23日(月・祝)		12月5日(土)－2月21日(日)			3月13日(土)－11月28日(日)(仮)
第1展示室	芦屋の時間 大コレクション展	美術と音楽の9日間 rooms	香川元太郎「迷路の絵本」展		第38回芦屋市造 形教育展	植松奎二 みえないものへ、触 れる方法(仮)
第2展示室						
期 間	9月19日(土)－11月8日(日)	11月14日(土)－ 11月23日(月・祝)	12月5日(土)－2月7日(日)		2月13日(土)－ 2月21日(日)	3月13日(土)－4月上旬

芦屋市谷崎潤一郎記念館

2020年度 展覧会(予定)

* 展覧会名は、変更する可能性があります。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
展示室	春の特別展 「潤一郎の美術展～文豪ゆかりの「美」に浸る～」			夏の特設展「大谷崎と文豪たち～師弟・親友・恋敵～」 (併設)通常展「谷崎潤一郎・人と作品」		
期間	3月14日(土)～6月7日(日)			6月13日(土)～9月6日(日)		

2021年

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展示室	秋の特別展「タブー～発禁の誘惑～」			冬の特設展 「初版本onパレード～名作たちのデビュー～」 (併設)通常展「谷崎潤一郎・人と作品」		
期間	9月12日(土)～12月6日(日)			12月12日(土)～3月7日(日)		

2021年

	3月・4月	5月	6月
展示室	2021年度 春の特別展 テーマ「細雪」予定		
期間	3月中旬～6月初旬		

芦屋市立美術博物館 収支予算書(2020年度)

(1)事業

(単位:千円)

	予算額
収入支出の差引額(A)－(B)	0

A:(収入内訳)

内 訳 科 目	指定管理料収入	75,200
	入館料収入	4,850
	施設利用収入	150
	駐車場収入	300
	講座・イベント	800
	自販機・グッズ等収入	1,500
収入合計		82,800

B:(支出内訳)

内 訳 科 目	人件費	28,841
	事業費	18,550
	修繕費	1,200
	その他支出	33,409
	自主事業費	800
支出合計		82,800

芦屋市谷崎潤一郎記念館 収支予算書(2020年度)

(1)事業

(単位:千円)

	予算額
収入支出の差引額(A)－(B)	0

A:(収入内訳)

内 訳 科 目	指定管理料収入	18,800
	入館料収入	2,400
	施設利用収入	100
	講座・イベント	9,000
	グッズ等収入	3,000
収入合計		33,300

B:(支出内訳)

内 訳 科 目	人件費	15,182
	事業費	2,650
	修繕費	800
	その他支出	8,668
	自主事業費	6,000
支出合計		33,300

